

治水の沿革

水害の歴史

川内川の史実に基づく一番古い洪水は、「続日本書記」及び「大日本史」に記載されている天平 18 年 10 月 5 日（西暦 746 年）の洪水で、古くから人や家畜の死傷、家屋の埋没・流失といった惨事が幾度ともなく繰り返されてきました。

昭和年間以降の主な洪水は下表のとおりで、主に梅雨性及び台風性に起因する洪水被害が頻発しています。

川内川流域の主な洪水

洪水発生年	原因	流域平均 12 時間雨量	流量 (川内地点)	被害状況
昭和 2 年 8 月 11 日	豪雨 (台風性)	-	-	浸水家屋 約 3,000 戸 (川内町調査のみ)
昭和 18 年 9 月 19 日	台風	-	-	家屋全半壊・流失 144 戸、 浸水家屋 3,333 戸
昭和 29 年 8 月 18 日	台風	133mm	約 2,900m ³ /s	死者 (13 名) 家屋全半壊・流失 (8,578 戸)、 床上浸水 (2,102 戸)、床下浸水 (10,236 戸)
昭和 32 年 7 月 28 日	梅雨	230mm	約 4,100m ³ /s	死者・行方不明者 (6 名) 家屋全半壊・流失 (30 戸)、 床上浸水 (1,433 戸)、床下浸水 (7,689 戸)
昭和 44 年 6 月 30 日	梅雨	152mm	約 3,600m ³ /s	死者・行方不明者 (52 名) 家屋全半壊・流失 (283 戸)、 床上浸水 (5,874 戸)、床下浸水 (7,448 戸)
昭和 46 年 7 月 21 日	梅雨	136mm	約 4,100m ³ /s	死者・行方不明者 (12 名) 家屋全半壊・流失 (347 戸)、 床上浸水 (3,583 戸)、床下浸水 (8,599 戸)
昭和 46 年 8 月 3 日	台風	206mm	約 4,900m ³ /s	死者・行方不明者 (48 名) 家屋全半壊・流失 (662 戸) 床上浸水 (3,091 戸)、床下浸水 (9,995 戸)
昭和 47 年 6 月 18 日	梅雨	239mm	約 6,200m ³ /s	死者・行方不明者 7 名 家屋全半壊・流失 357 戸、 床上浸水 1,742 戸、床下浸水 3,460 戸
昭和 47 年 7 月 6 日	梅雨	136mm	約 3,200m ³ /s	死者・行方不明者 8 名 家屋全半壊・流失 472 戸、 床上浸水 695 戸、床下浸水 1,399 戸
平成元年 7 月 27 日	台風	223mm	約 4,200m ³ /s	家屋全半壊・流失 45 戸 床上浸水 171 戸、床下浸水 702 戸
平成 5 年 8 月 1 日	豪雨	190mm	約 5,300m ³ /s	家屋全半壊・流失 13 戸、 床上浸水 170 戸、床下浸水 423 戸
平成 5 年 8 月 6 日	豪雨	188mm	約 4,200m ³ /s	家屋全半壊 9 戸、 床上浸水 102 戸、床下浸水 410 戸
平成 9 年 9 月 16 日	台風	190mm	約 3,500m ³ /s	家屋全壊・一部破損 3 戸、 床上浸水 264 戸、床下浸水 223 戸
平成 18 年 7 月 22 日	梅雨	295mm	約 8,400m ³ /s	死者 2 名 家屋全半壊・流失 32 戸、 床上浸水 1,816 戸、床下浸水 499 戸

注 1) 被害状況欄の()書は、鹿児島県全体の値(鹿児島県調べ)によります。

注 2) 昭和 32 年から平成 9 年間の被害は、出水記録 九州地方建設局によります。

注 3) 出典：出水記録 九州地方建設局、川内川五十年史、鹿児島県災異誌、
平成 18 年度川内川洪水痕跡調査

注 4) 流量は、川内地点で実際に観測した値に、上流域のはん濫で溢れた量とダムの洪水調節で減らした量を加えた推算値である。